

2024年10月23日

熊本大学大学院自然科学教育部理学専攻

理学専攻 M2アンケートの集計と分析

このアンケートは2024年3月に修了した自然科学教育部理学専攻の大学院生を対象として実施したものであり、9月修了生と外国人留学生については実施していない。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

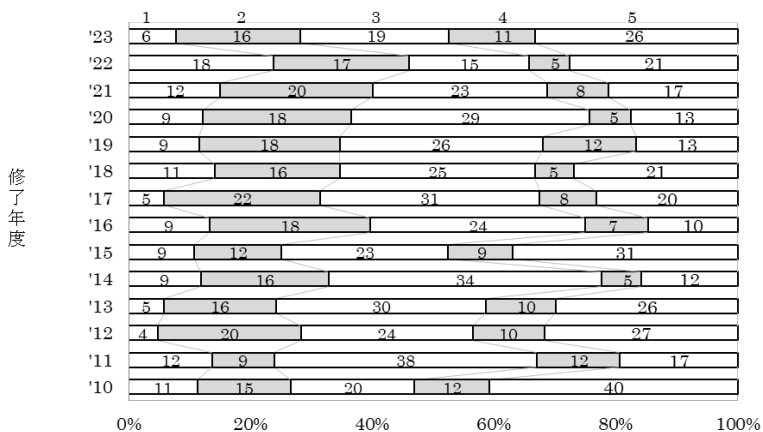
提出期限：2024年2月26日（月）

提出場所：理学部教務担当

結果、78名から回答を得ることができた。回収率は89%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。なお‘23卒業年度を今年度と表記した。

あなたの研究分野は何ですか

1. 数学
2. 物理科学
3. 化学
4. 地球環境科学
5. 生命科学



年度によって研究分野に増減があるが、例年、物理科学、化学、生命科学が多い。今年度は生命科学、化学、物理科学、地球環境科学、数学の順になっている。

A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学教育部理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：75 件

多くあった意見をまとめると以下のようになる。

- ・研究、専門性、知識を深めたい、研究を継続したい 56 件
- ・学部と同じ環境で学びたい 12 件
- ・学部と同じ先生に学びたい 4 件
- ・就職活動のため
(知識を深めて社会に出たい、研究を仕事にいかしたい等) 3 件

学問の高みを目指すという意味合いの理由が最も多い。

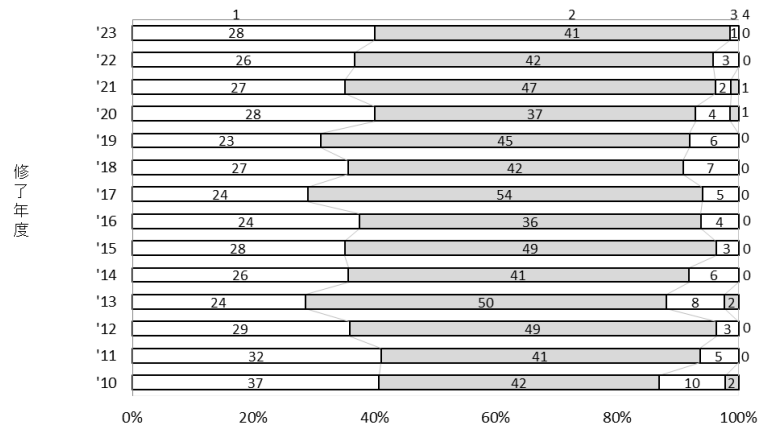
B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。
(該当しない人は次ページの質問 (B7) に進んで下さい)。

(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学修・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

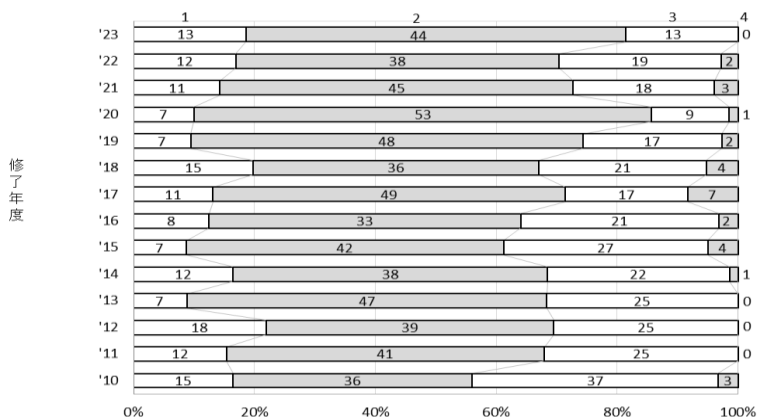
例年、「非常に有益」と「有益」が多く、合わせて 90%を超えている。近年、「あまり有益ではなかった」が非常に少ないのは、よい傾向である。



(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目(理系基礎科目・理学共通科目も含む)は、大学院での学修・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

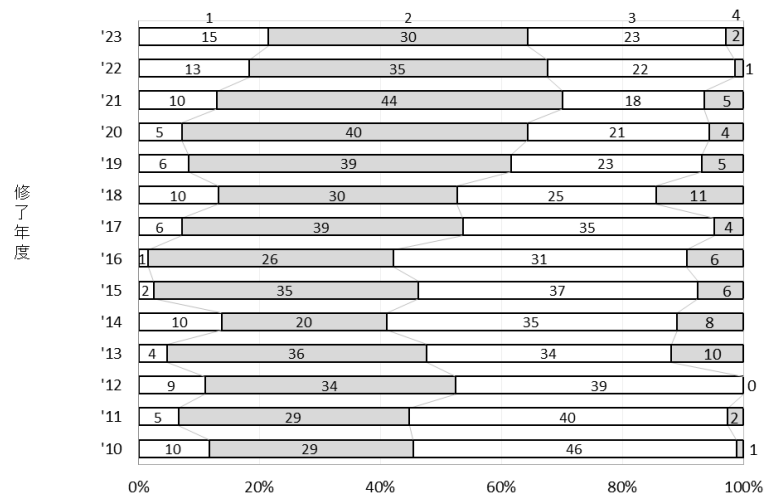
例年、「有益」が非常に多く、「非常に有益」と合わせて 70~80%を占めている。研究には多くの学問分野が関係していることの表れである。これら大学院生
の声を、学部学生に伝えることも大切と思われる。



(B3) 教養教育での学修は、大学院での学修・研究に有益でしたか

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

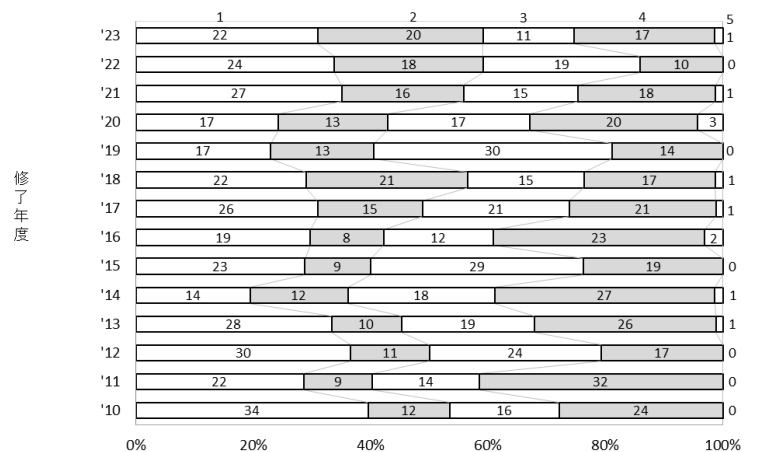
「非常に有益」と「有益」が徐々に増えており、近年は合わせて60%を超えているのは、よい傾向である。研究には多くの学問分野が関係していることの表れである。これら大学院生の声を、入学直後の学部学生に伝えることも大切と思われる。



(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか。

1. 入学前
2. 1年終了時
3. 2年前期終了時
4. 2年後期
5. その他 (回答 1件)

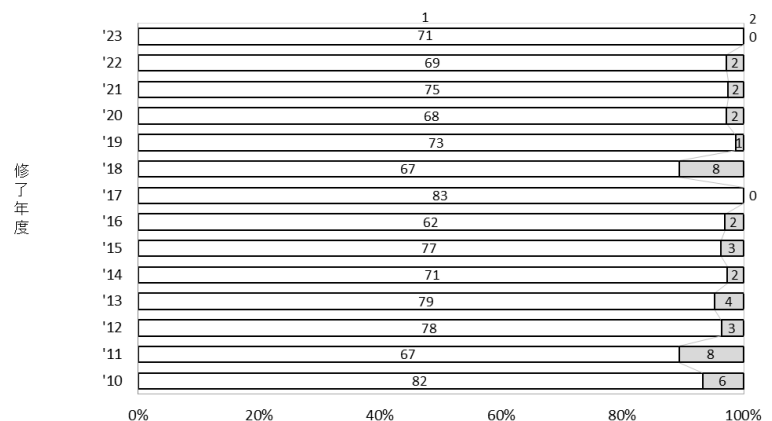
例年、「入学前」が多く、約30%を占めている。近年は「1年終了時」と「2年後期」も同程度に多い。



(B5) 専門分野の選択は自分にとってよかったですか。

1. 思う
2. 思わない

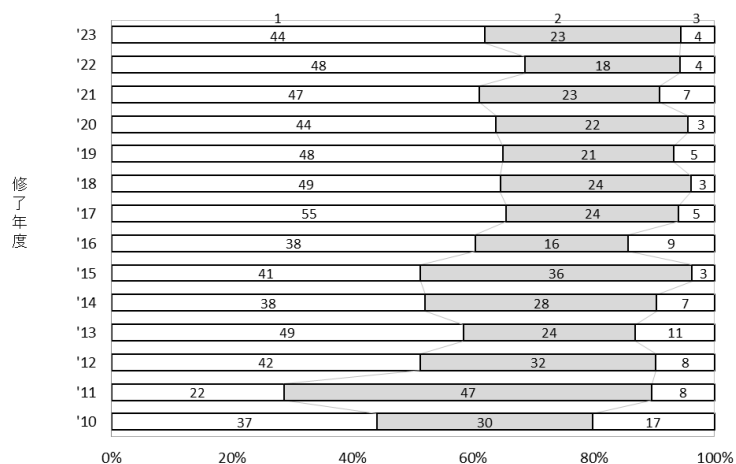
例年、「思う」が90%を超えており、2023年度は100%である。



(B6) 現在，3年進級時にコースを選択していますが，いつがよかったと思いますか。

1. いまのまま（3年進級時）
2. 2年後期から
3. その他（時期：回答4件）

2011年度以外は「いまのまま（3年進級時）」が最も多く，2016年度以降は約60%を占めている。

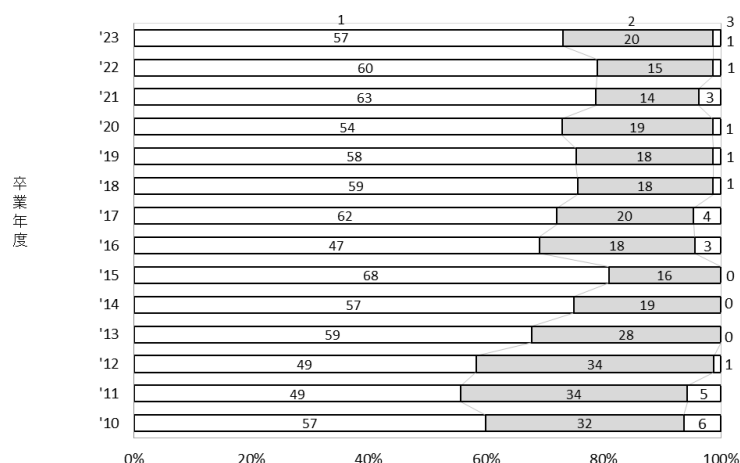


自然科学教育部での授業に関してお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。

1. 適切であった
2. どちらとも言えない
3. 不適切であった

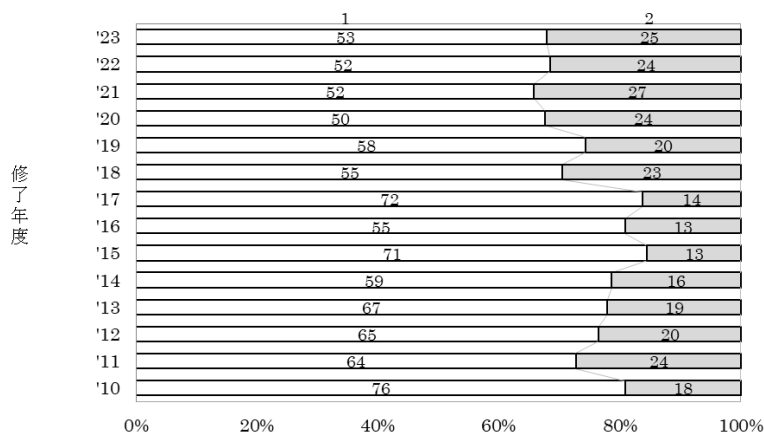
例年，「適切」が最も多く，2013年度以降は約70%を占めている。割合が適切であることが分かる。



(B8) 理学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は，科目数もお書き下さい。また，集中講義に対して具体的な意見があれば，自由記述欄にお書き下さい。

1. 履修した（科目数：回答数 51件）
2. 履修しなかった

例年，「履修した」が約70%である。2023年度は，1～2科目が多い。予算削減が続く中で，集中講義枠をどう確保していくかが課題となる。



(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

科目名, 意見など 61 件

それぞれのコースに係る講義が挙げられている。また, 他大学との連携授業を挙げる回答が複数あった。

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業 (特別研究やゼミナールを除く) を何科目履修しましたか。

科目数: 平均 3.1 科目 (うち集中講義 平均 1 科目)

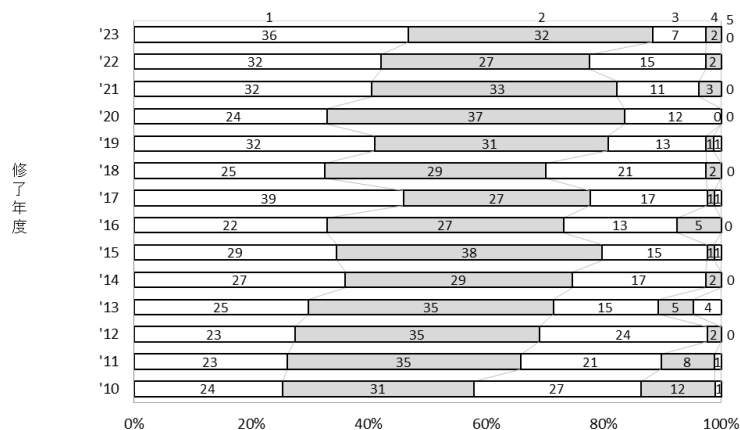
回答数: 77 件

2 年次では, 3 科目程度を履修していることが分かる。

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

「満足」と「どちらかといえば満足」が増え, 近年は合わせて 80%を超えている。「どちらとも言えない」と「不満足」は約 20%に減っており, よい傾向である。

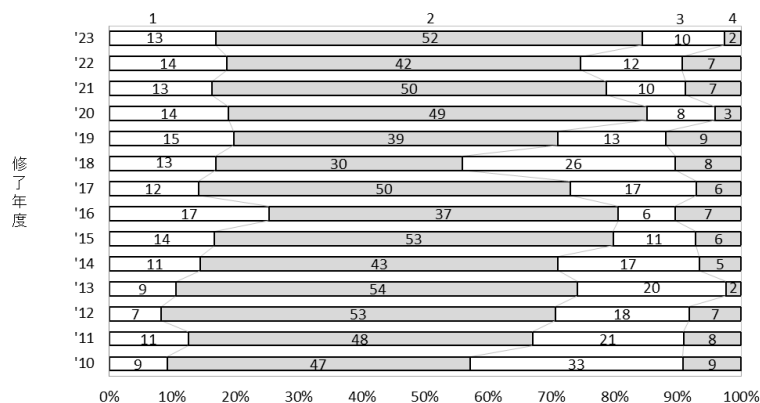


自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 学生便覧に掲載されている自然科学教育部の教育目的は理解していましたか。

1. 十分理解している
2. ほぼ理解している
3. よくわからない
4. 知らない

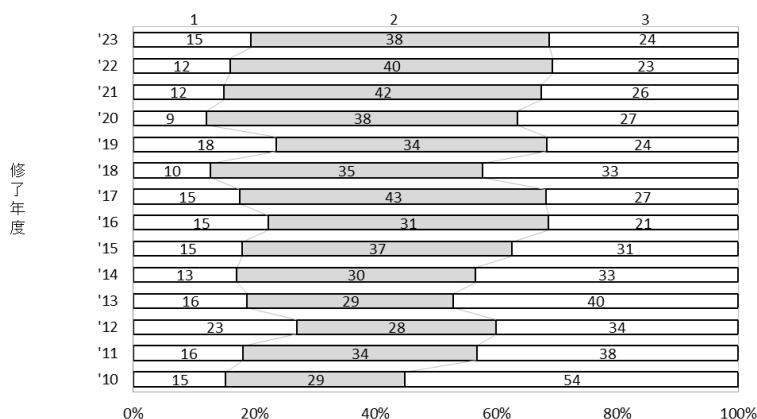
例年, 「ほぼ理解」が非常に多く, 近年は「十分理解」と合わせて約 80%を占めている。教育目的がよく理解されていることが分かる。



(B13) 自然科学教育部は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

1. メリットはあった
2. わからない
3. メリットはなかった

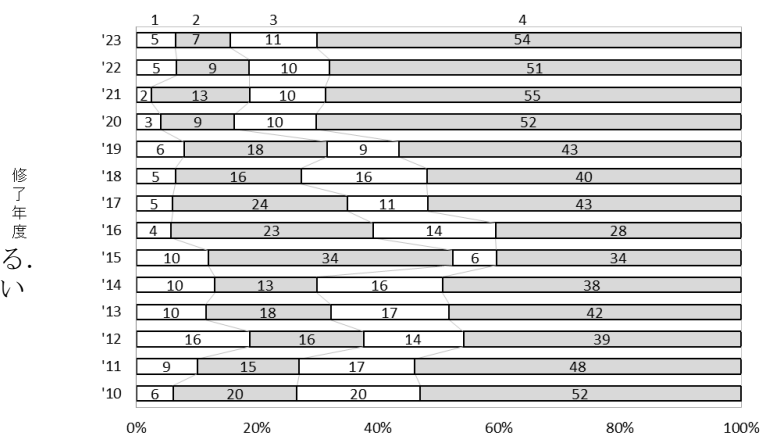
例年、「メリットはあった」が約 20%と少なく、「わからない」と「メリットはなかった」が約 80%を占めている。理工融合のカリキュラム整備が不十分と考えられる。



(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

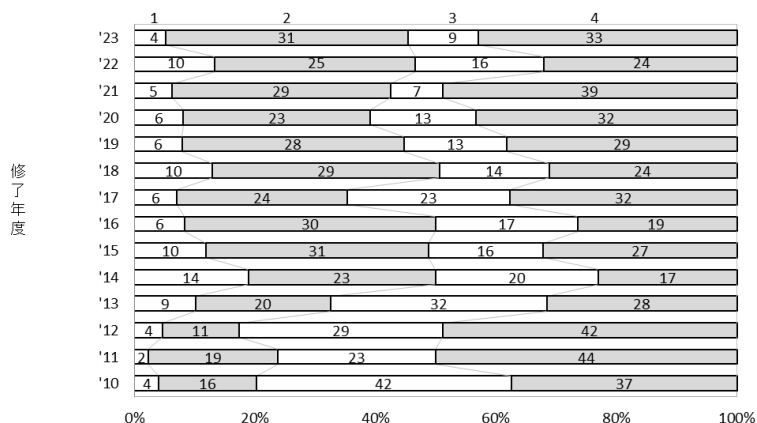
2020年度以降、「全くなかった」が約 70%に増えている。交流が無いため、(B13)の「メリットはなかった」が多いことが分かる。



(B15) 研究分野の異なる大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 一緒に研究した
2. 一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

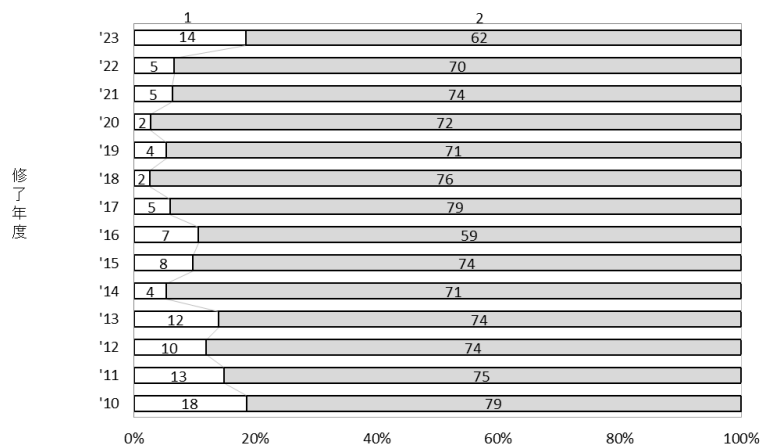
他分野と何らかの交流がある(1~3)のは、2014年度以降は50~70%を占めている。工学系とは交流が少ないが(B14)、理学専攻の中ではある程度の交流があることが分かる。



(B16) 工学系の専攻の授業科目は履修しましたか.

1. 履修した (科目数 : 回答数 15 件)
2. 履修しなかった

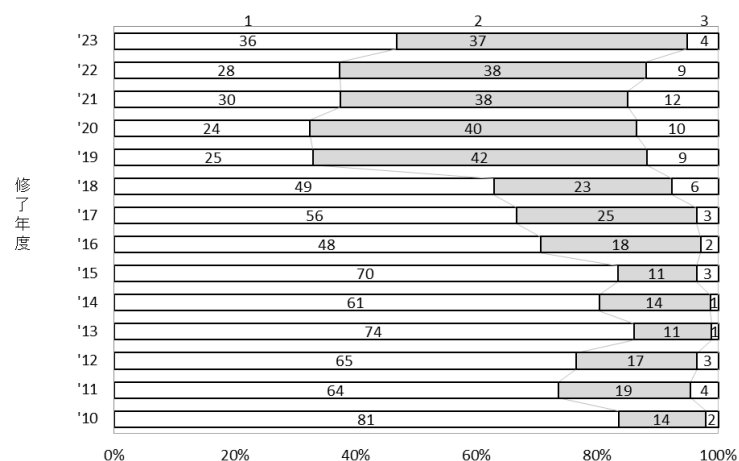
例年, 「履修した」は 20%以下と少ない. (B14) と同じく, 交流が少ないことが分かる.



(B17) 全専攻共通科目 (インターシップ I, 特別プレゼンテーション I) は履修しましたか.

1. 履修した (科目数 : 回答数 35 件)
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

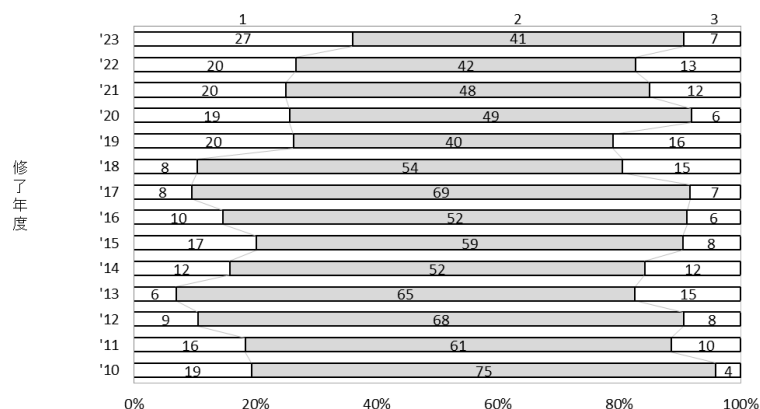
「履修した」は, 2018 年度以前は 60%を超えていたが, それ以降は 40%より少なくなった. コロナ禍の影響と考えられる. 2023 年度は約 50%に増えたが, 今後は 2018 年度以前と同程度まで増えることが予想される.



(B18) 理工融合教育科目 (先端科学科目, 大学院教養教育科目, 英語教育科目, MOT 特別教育科目) IJEP 開講科目, イノベーションリーダー育成プログラム開講科目は履修しましたか.

1. 履修した (科目数 : 回答数 27 件)
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

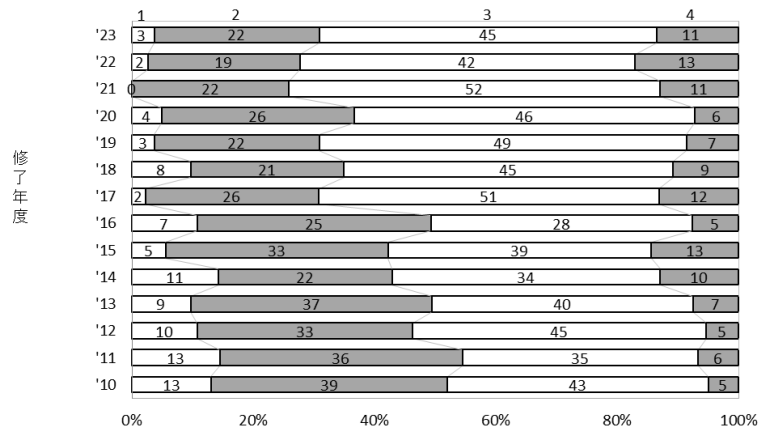
2019 年度以降, 「履修した」が 30%以上に増えている. 2023 年度の科目数は, 1, 2 科目が多かった. しかし, 「履修しなかった」と「知らなかった」を合わせると 60~70%を占めており, 積極的な受講を促す必要がある.



(B19) 自然科学教育部の授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。(複数選択可)

1. 全て英語が良い
2. 専門用語は英語が良い
3. 基礎的な内容は日本語が良い
4. 全く必要ない

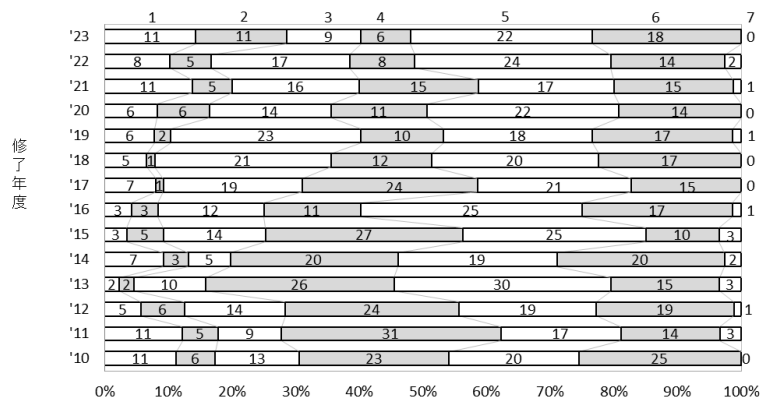
2017年度以降は、「全て英語」と「専門用語は英語」を合わせても約30%に減っている。例年、「基礎的な内容は日本語が良い」が約50%と最も多い。英語化の要望が減っていることが分かるが、少なくとも専門用語には英語表記を付けるなど、大学院教育における英語の使い方を検討すべきであろう。



(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

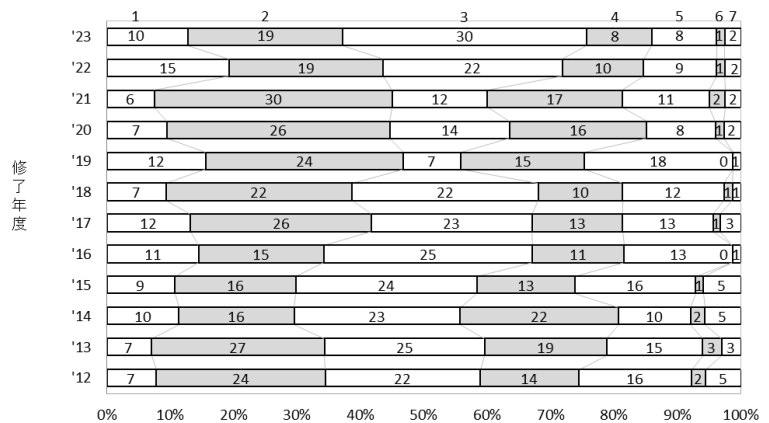
例年、「M1」と「M2」が多く、合わせて約50%を占めている。大学院に入って自分の専門を研究するため、勉学意欲が上がるのは当然であろう。2023年度は3年次と4年次が、1年次や2年次よりも少ない。コロナ禍の影響が考えられる。



(B21) 学部・大学院の6年間で、いつの時期にもっと学修しておけば良かったと思いますか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

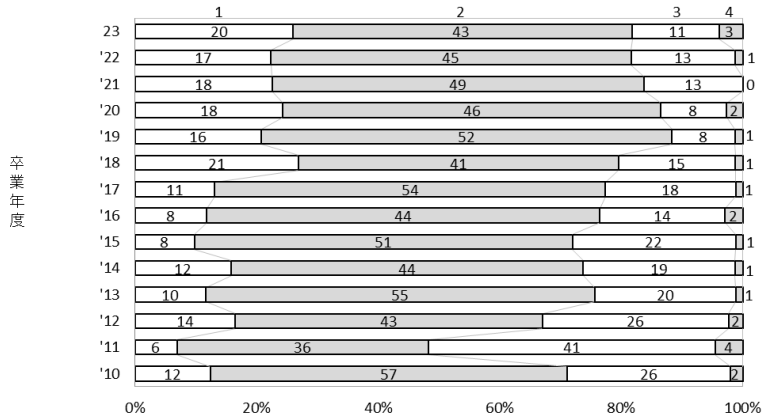
例年、「2年次」と「3年次」が多く、合わせて約60%を占めている。これら大学院生の声を、学部学生に伝えることも大切と思われる。



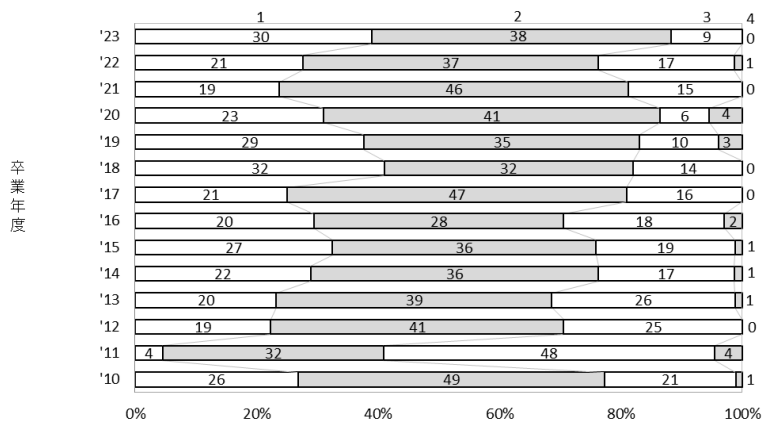
(B22) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

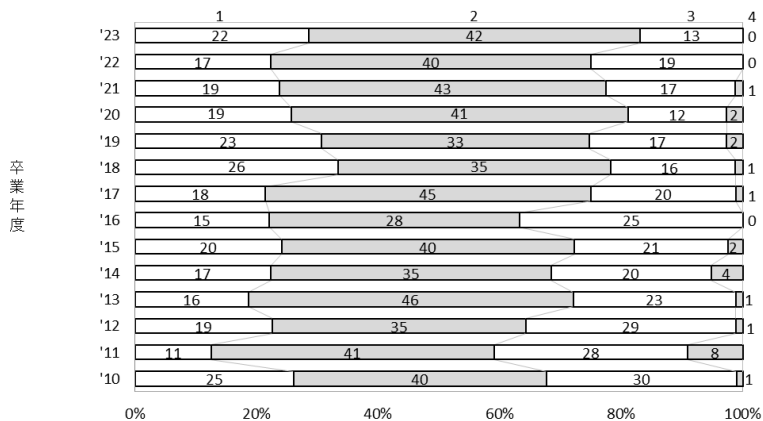
a. 教養・基礎学力：



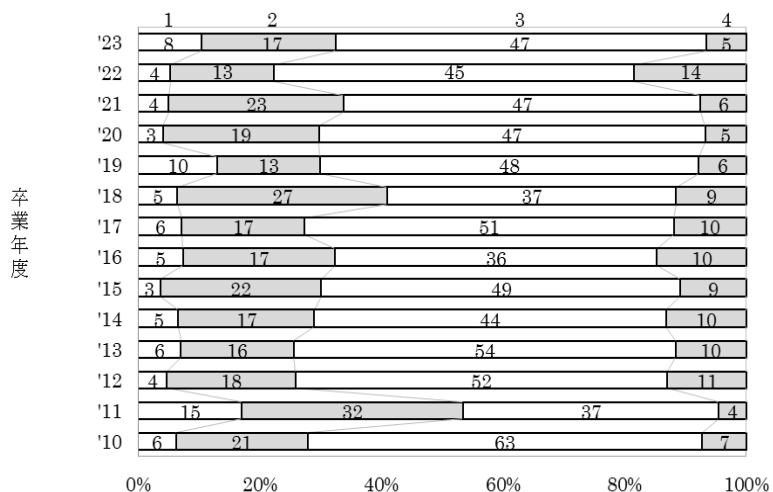
b. 専門知識：



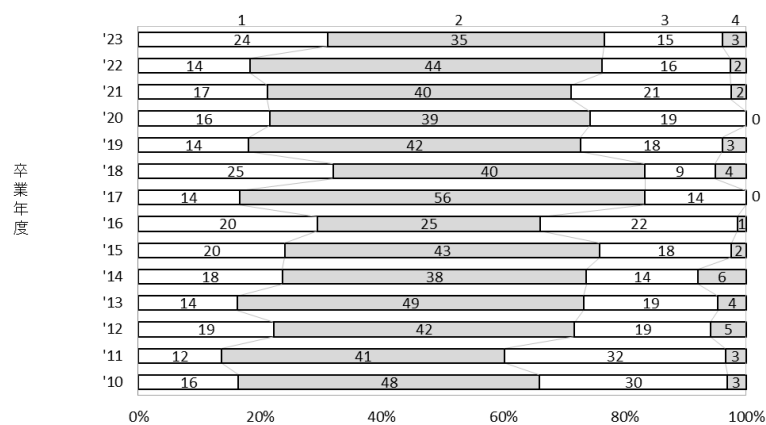
c. 技術・技能



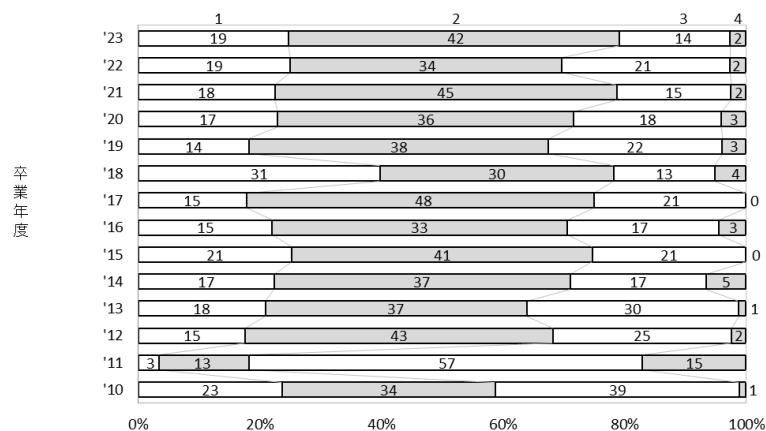
d. 英語を含めた外国語運用力



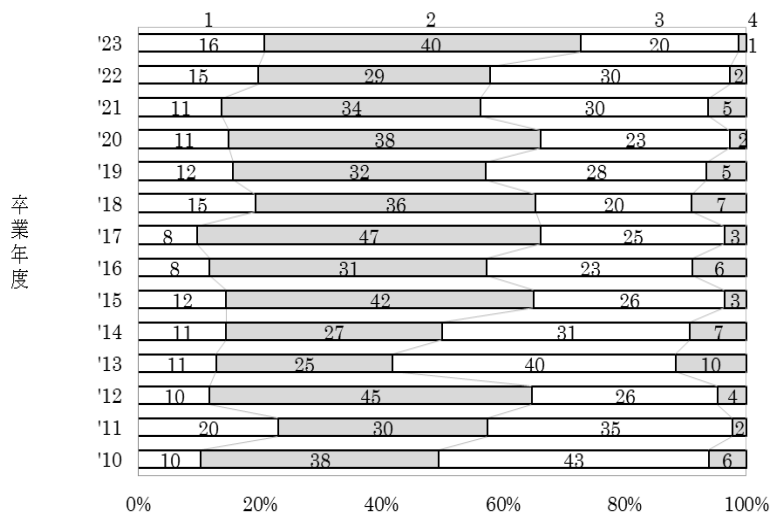
e. 一般的なコミュニケーション力



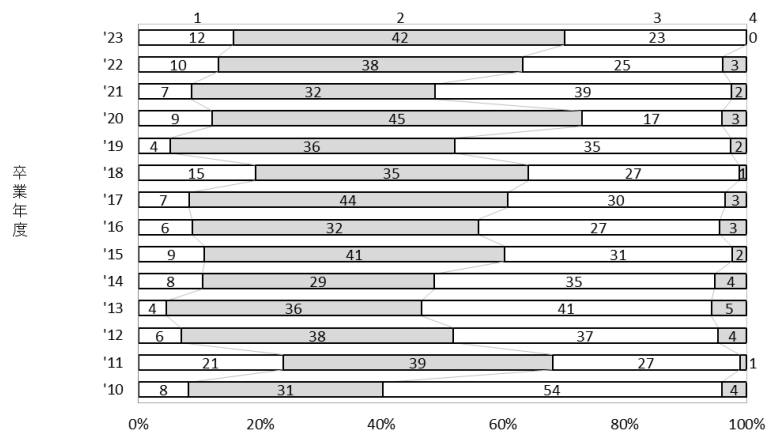
f. プレゼンテーション力



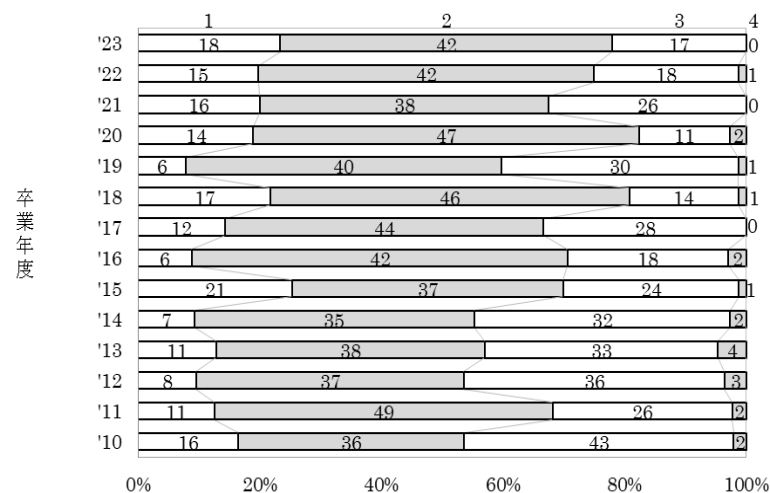
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力



h. 独創性・発想力



i. 課題発見・解決力

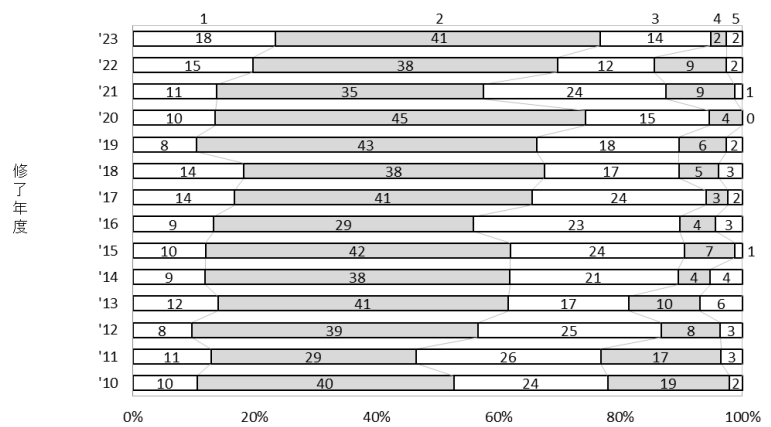


例年、教養・基礎学力と専門知識は「身に付いた」と「ある程度身に付いた」を合わせると、約80%を占めている。一方、英語を含めた外国語運用力は、「もっと身に付けたかった」が60%以上を占めている。翻訳機能が進歩する中で、今後どのような能力が必要かを見極め、その能力を涵養する方策を検討する必要がある。

(B23) 博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますが、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

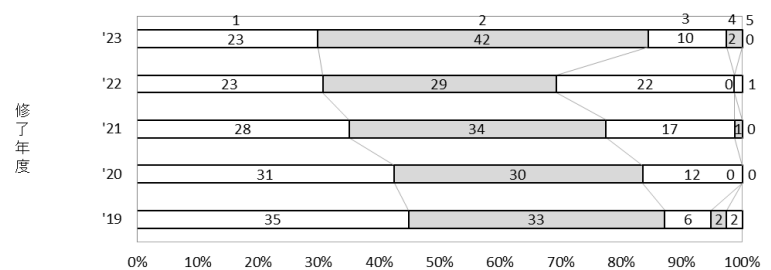
例年、「どちらかといえば満足」が最も多く、2023年度は「満足」と合わせて約80%まで増えているのは、よい傾向である。しかし、少数だが否定的な回答(4,5)もあることは、注意すべきである。



修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

1. ほぼ毎日
2. 週4, 5日
3. 週2, 3日
4. 週1日
5. ほとんどしなかった。

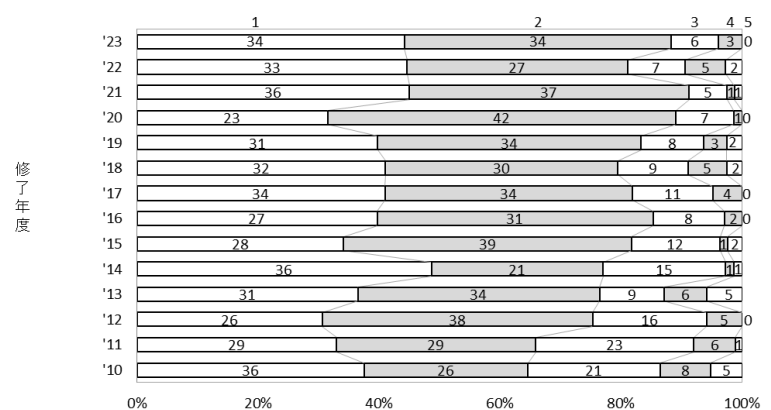


例年、「毎日」と「週4, 5日」の学生が多く、合わせて約80%であった。2021年度と2022年度が少なかったのは、コロナ禍の影響と考えられる。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

「満足」と「どちらかといえば満足」が増えており、2023年度には合わせて90%近くを占めているのは、よい傾向である。



(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表，学会発表，セミナーなど）があれば記述して下さい。

回答：31 件

学会発表が最も多く，次いでセミナー，中間発表であった。自身で発表し，他者とディスカッションすることが研究に役立つことを実感していると考えられる。

C. 修了後の進路について

(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか。

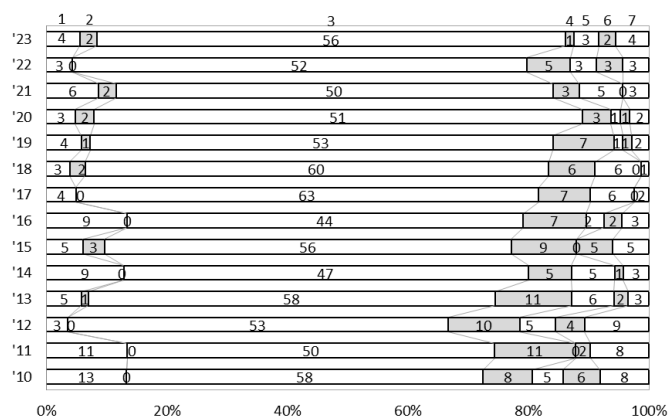
[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

3. 民間企業
4. 教職（非常勤および臨時採用含む）
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他（進学・就職以外）：3件

修了年度



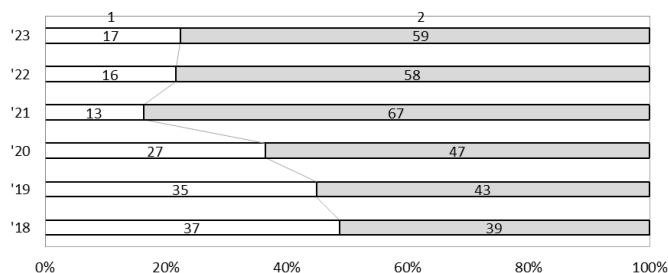
例年，民間企業に就職する院生が約 80%を占め，進学，教職，公務員は少ない。2023 年度は，とくに教職が少ない。後期課程進学者を増やすためには，「次世代研究者挑戦的研究プログラム」や経済的支援についての周知が必要である。

(C2) M1の時に開催している進路説明会には出席しましたか。

1. はい
2. いいえ

2021 年度以降，「はい」が約 20%と少ないため，説明会の周知を徹底する必要がある。

修了年度



(C3) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか。

回答数：7 件

- | | | | |
|-------|------|-------|------|
| 修士1年次 | (2名) | 修士2年次 | (1名) |
| 学部 | (3名) | 大学入学時 | (1名) |

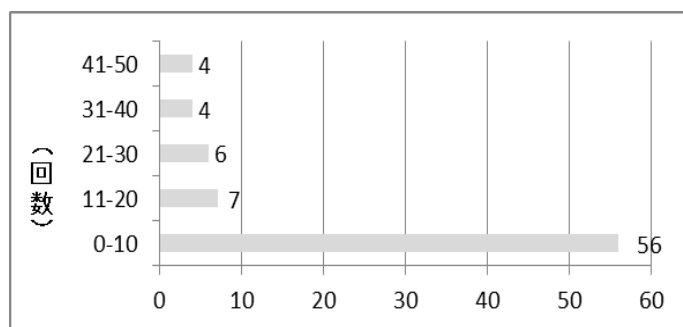
博士後期課程への進学は非常に少ない。進学を考える際のネックとなる事項の調査と，本学の経済的支援についての周知が必要である。

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C4) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、企業を何回訪問しましたか。

回答数：67 件

0-10 回が 56 人と最も多い。しかし、30 回以上も 8 人おり、負担が大きいと考えられる。



(C5) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

回答数：68 件

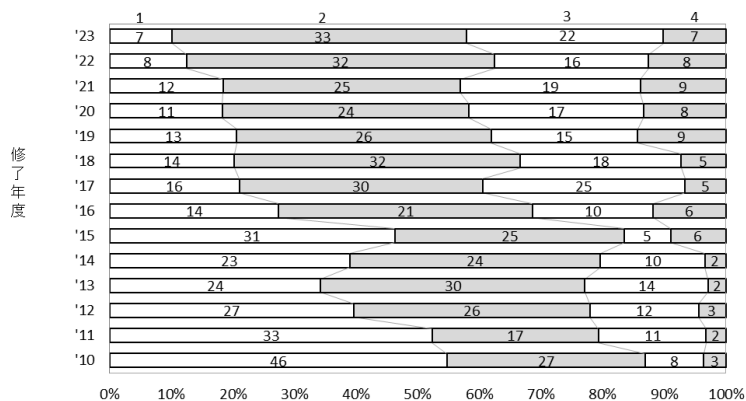
開始時期は学部生と同様に M1 の 12 月～3 月が多いが、終了時期は M2 の 3 月～7 月が多く、学部生より少し早いことが分かる。学部卒業生よりも、博士前期課程修了生を早く確保する企業が多い可能性を示している。

開始時期	人数	終了時期	人数
2020.04	1	2022.04	1
2022.01	1	2022.12	1
2022.02	1	2023.01	0
2022.03	3	2023.02	4
2022.04	2	2023.03	8
2022.05	2	2023.04	10
2022.06	6	2023.05	13
2022.07	4	2023.06	13
2022.08	3	2023.07	9
2022.09	2	2023.08	1
2022.10	1	2023.09	1
2022.11	4	2023.10	2
2022.12	9	2023.11	0
2023.01	4	2023.12	0
2023.02	7	2024.01	0
2023.03	13	2024.02	0
2023.04	3	2024.03	1
2023.05	1	2024.04	1
2023.06	1		

(C6) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

1. かなりあった
2. 少しあった
3. あまりなかった
4. 全くなかった

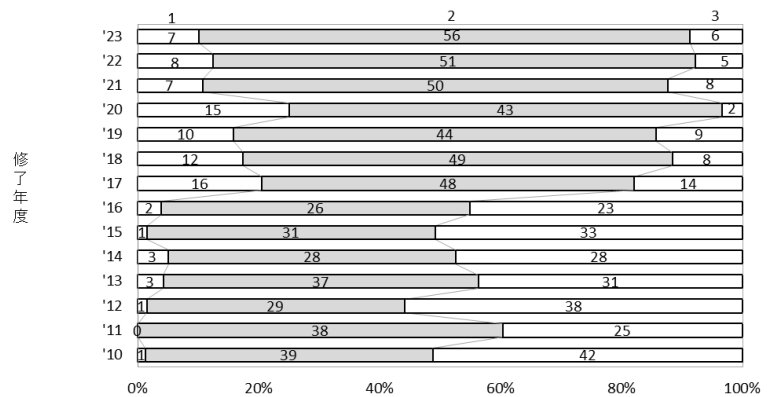
「かなりあった」は減っているが、2023 年度の 7 人は (C4) の 30 回以上と考えられる。近年でも「少しあった」を合わせると約 60%を占めており、影響が大きいことが分かる。関係企業に知らせる必要があると考える。



(C7) 企業等からの求人で学部やコースからの推薦を依頼されることがありますが、この推薦枠を利用されましたか。

1. 推薦を利用した
2. 推薦枠を利用しなかった
3. 知らなかった

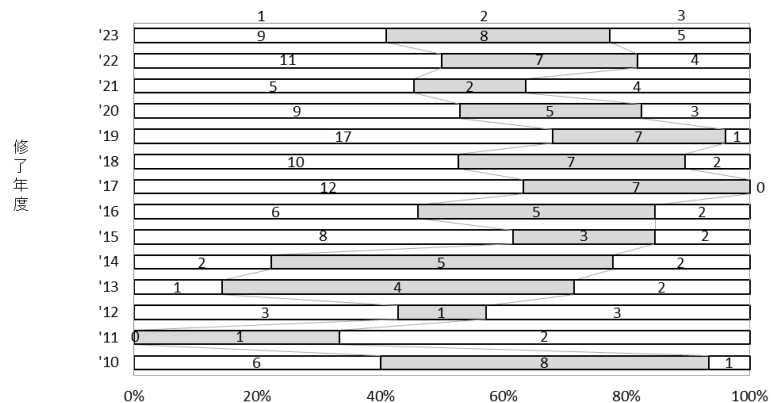
2017年度以降、「利用した」は約10%に増えたが、それ以外の約80%は利用していないことが分かる。



(C8) 大学院でインターンシップを履修した人にお聞きします。インターンシップは卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった

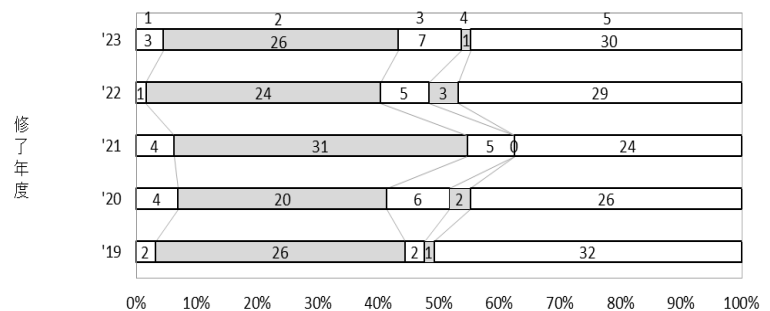
インターンシップを行う院生が増え、2022年度以降は20人を超えている。2015年度以降、「役立った」が40~60%を占めている。しかし、近年は「ほとんど役立たなかった」人数が増えており、今後の動向を見守る必要がある。



(C9) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない

例年、「利用していない」を除くと、「満足」が大多数であり、現状の体制および情報への満足度は高い。

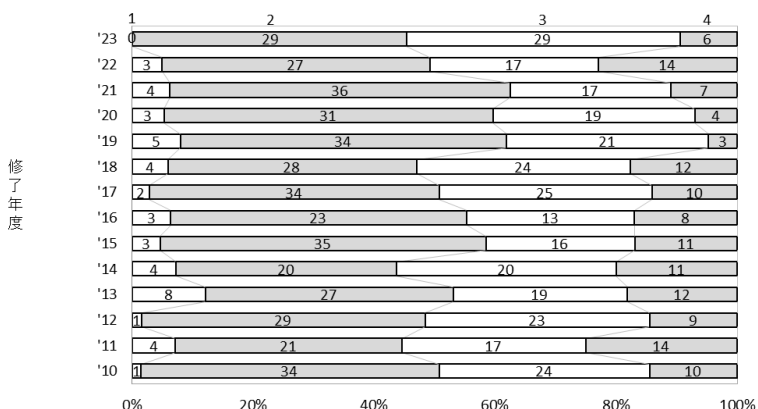


熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします（該当しない学生は（D1）に進んで下さい）。

(C10) 就職活動で学部時代に数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか。

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらともいえない
4. 役に立たなかった

例年、「採用の決め手となった」と「ある程度役にたった」を合わせても約50%である。

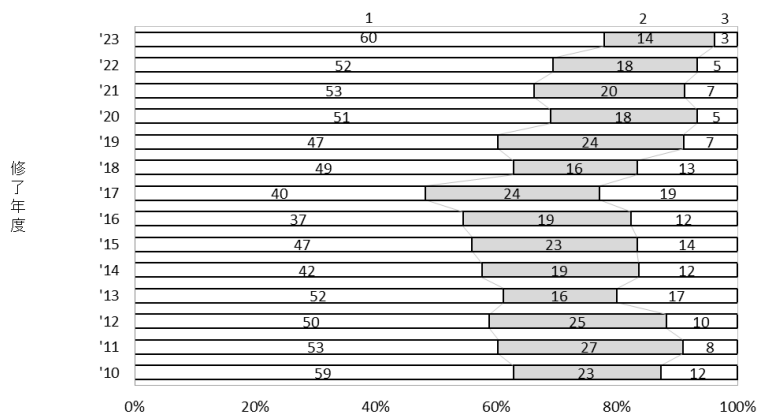


D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか。必要なものがあれば挙げて下さい。

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

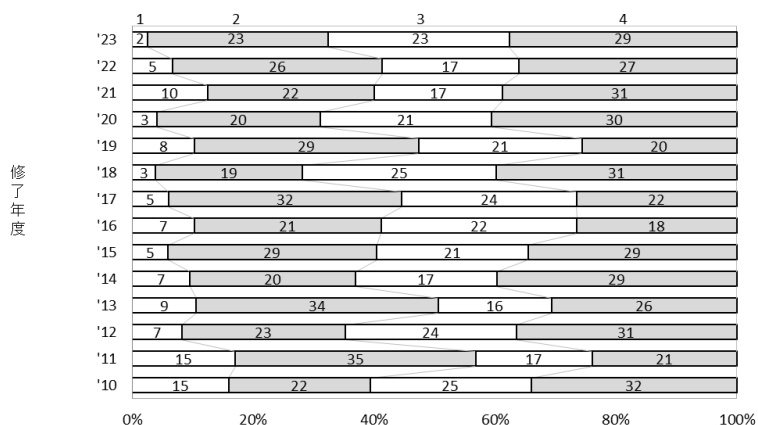
近年は「十分」が約80%まで増え、「不十分」は非常に少ないのは、よい傾向である。



(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

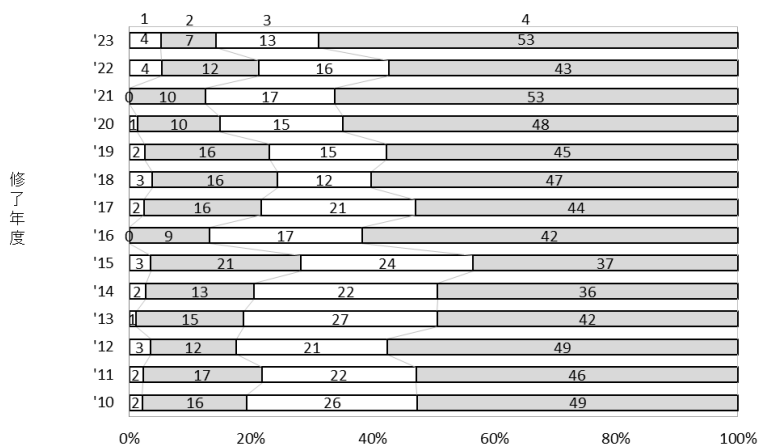
例年、何らかの問題があった院生（1～3）が約60%を占めており、経済的な支援が必要であることが分かる。



(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

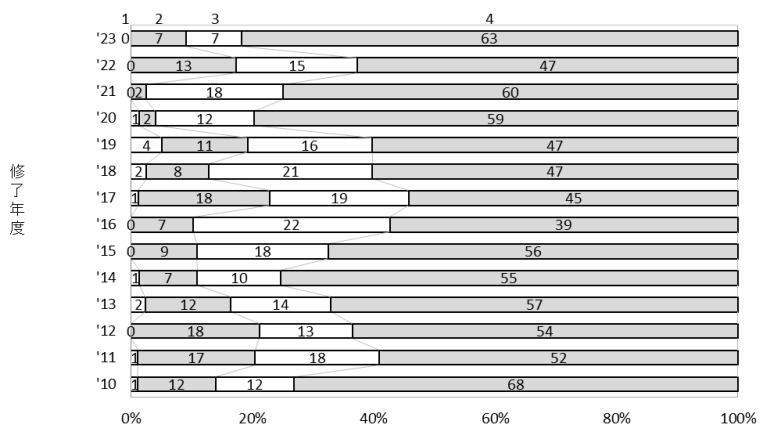
例年、何らかの問題があった院生（1～3）が30～40%いる。対応する窓口の整備と、学生の気質が変わってきていることを教員も認識する必要がある。



(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

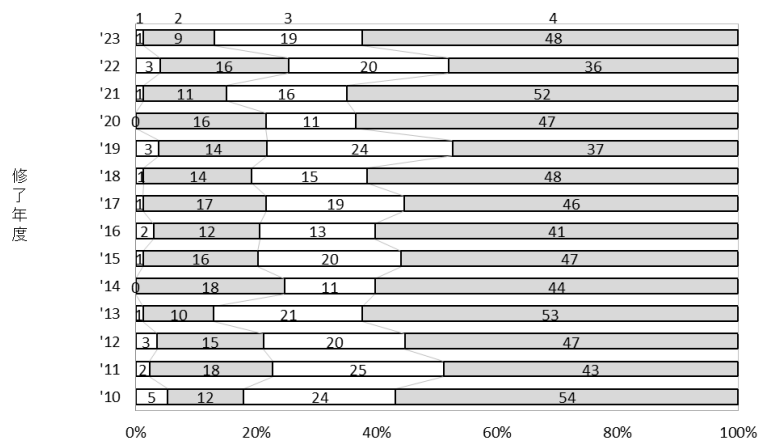
例年、何らかの問題があった院生（1～3）が20～40%いるが、問題の詳細が分からないので、多いのか少ないのか判断できない。



(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか。

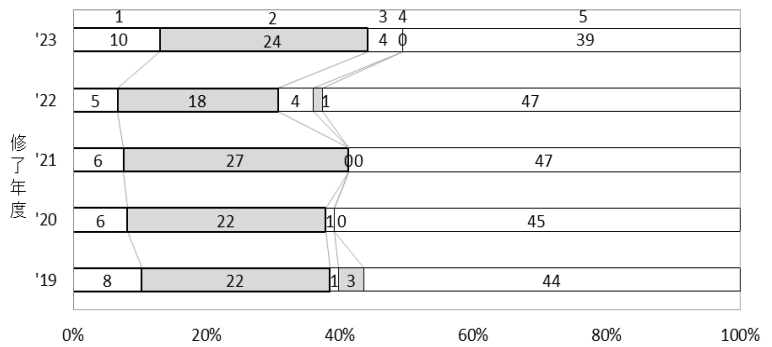
1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

例年、何らかの問題があった院生（1～3）が約40%いるが、(D6)で健康相談の体制には満足している結果となった。



(D6) 健康相談の体制には満足できましたか.

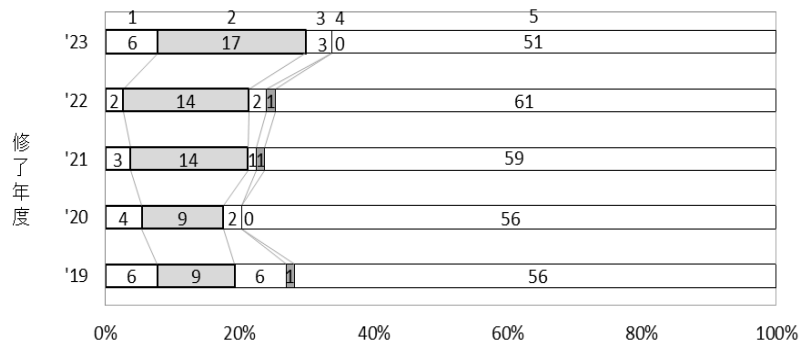
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない



例年、「利用していない」を除くと、「大いに満足」と「満足」が大多数を占めており、満足度は高いと判断できる。しかし、「不満足」と答えた院生が数人おり、理由を精査する必要がある。

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか.

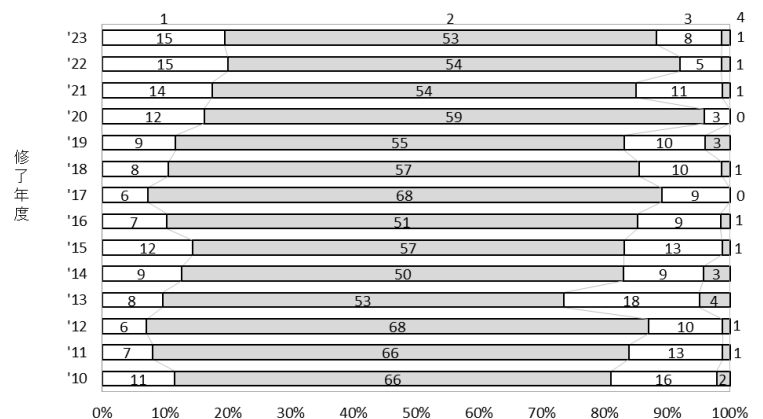
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない



例年、「利用していない」を除くと、「大いに満足」と「満足」が大多数を占めており、満足度は高いと判断できる。しかし、「不満足」と答えた院生も数人おり、理由を精査し、改善する必要がある。

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



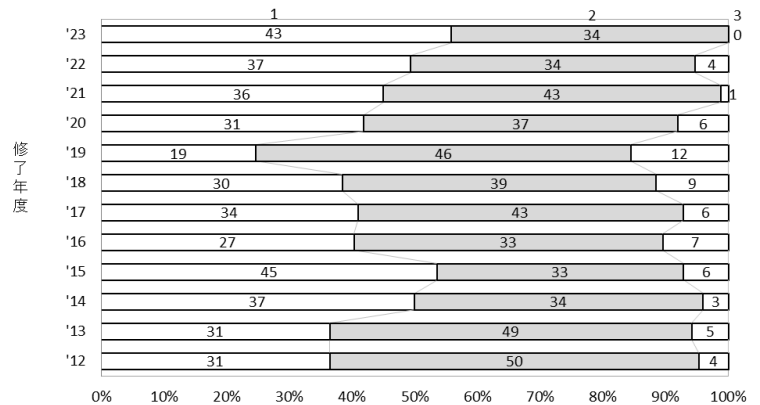
例年、「大いに満足」と「満足」が80~90%を占めており、満足度は高いと判断できる。

E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) シラバスは良くよみましたか。

1. 良く読んだ
2. 真剣には読まなかった
3. 見ていない

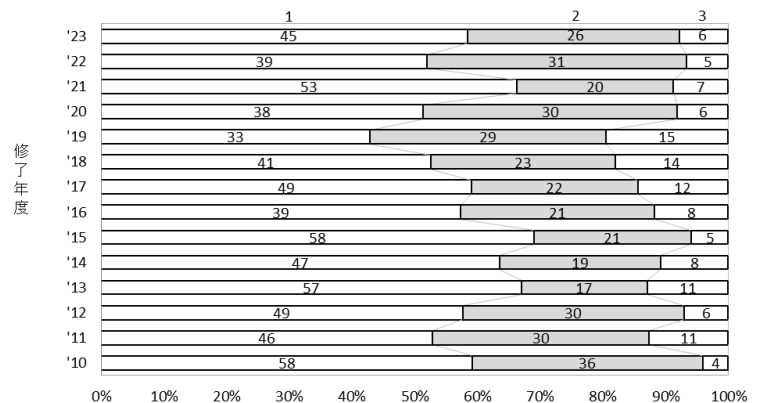
2019年度以降、「よく読んだ」が60%近くまで増えている。例年、「真剣には読まなかった」が約50%を占めており、シラバスを読むように周知する必要がある。



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった

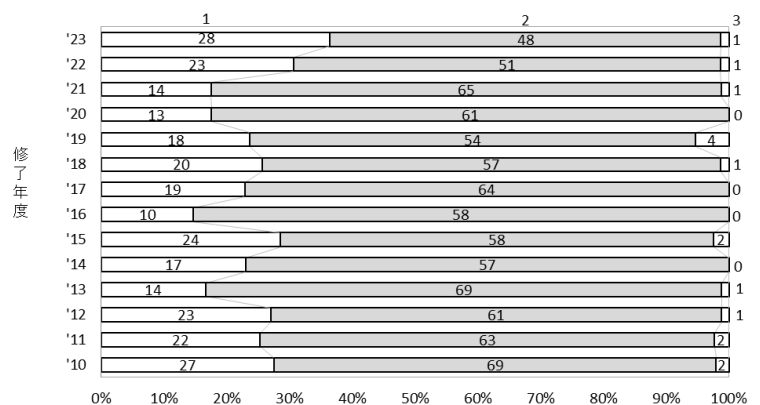
例年、「役立った」が約60%を占めており、「ほとんど役立たなかった」が約10%と低い割合であった。(E1)の「真剣には読まなかった」が多い結果も踏まえ、履修ガイダンスなどでシラバスの重要性を周知する必要がある。



(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方が良い
2. 今の程度でよい
3. その他

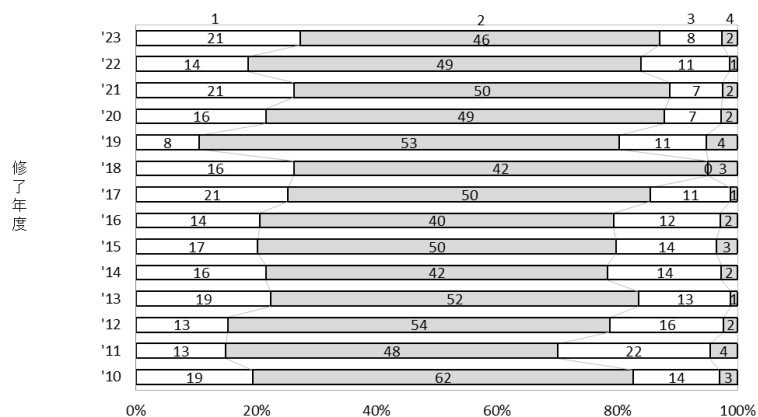
例年、「今の程度でよい」が約70%を占めており、適切であることが分かる。しかし、近年は「より明確な方が良い」が30%より増えており、今後の動向を見守る必要がある。



(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか.

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

例年、「多くの科目で行われている」が最も多く、「行われている」を合わせて80%以上を占めている.

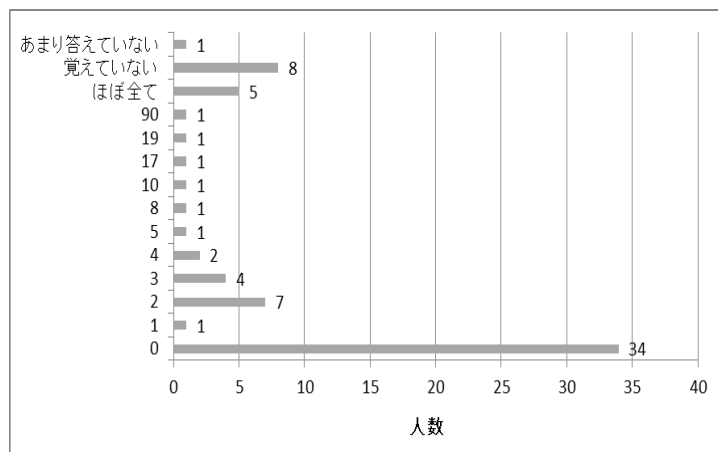


大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きします.

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか.

回答数 : 68 件

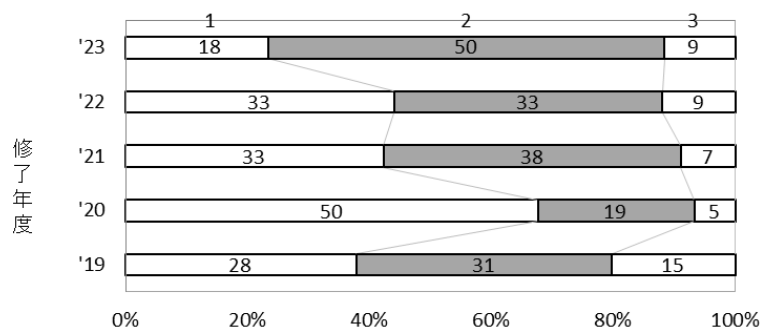
半数は「0」であるが、そもそもアンケート対象の科目数が分からないので、判断できない.



(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか.

1. はい
2. いいえ
3. アンケートを行った授業がない

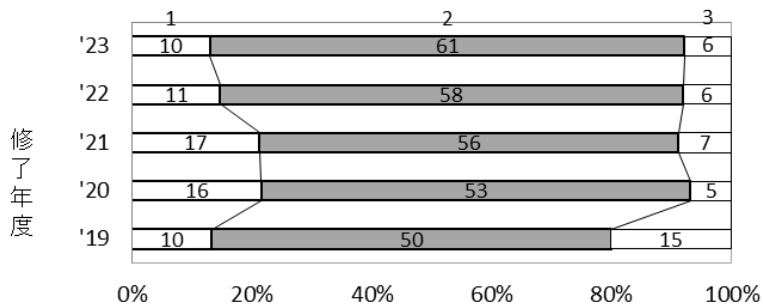
2023年度は「はい」が約20%と減って、「いいえ」が約60%に増えている. 今後の動向を見守る必要がある.



(E7) Web 上での教員のコメントは読みましたか.

1. はい
2. いいえ
3. アンケートを行った授業がない

例年、「はい」は20%以下いるので、次年度以降の授業改善に向けたコメント入力は、一定以上の意味がある. この点を教員へ周知することも必要である



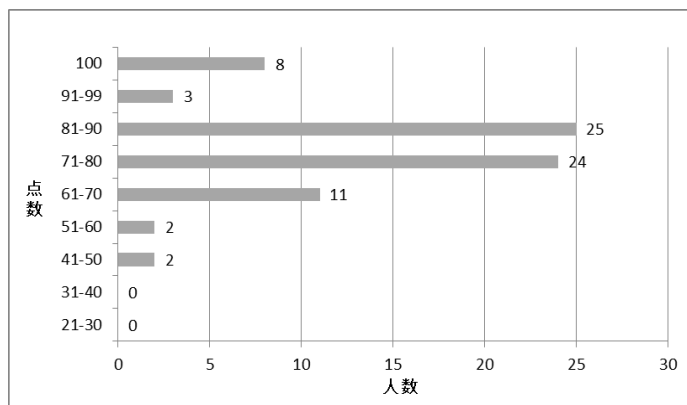
F. 総合評価

自身の専攻に対する評価をお聞きします.

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を100点満点で点数をつけて下さい.

回答数 : 75 件

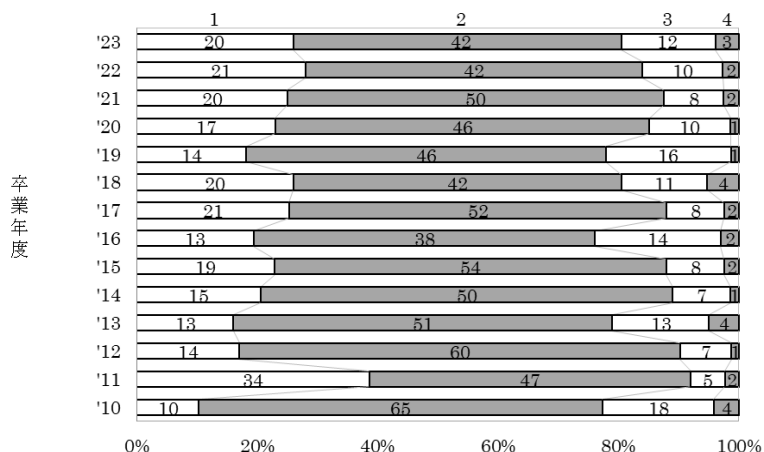
71~100点を合わせると約80%を占めており、非常に満足している院生が多いことがわかる. 更に満足度を高めるよう努力するとともに、満足度の高いことを学部学生に示すことも大切である.



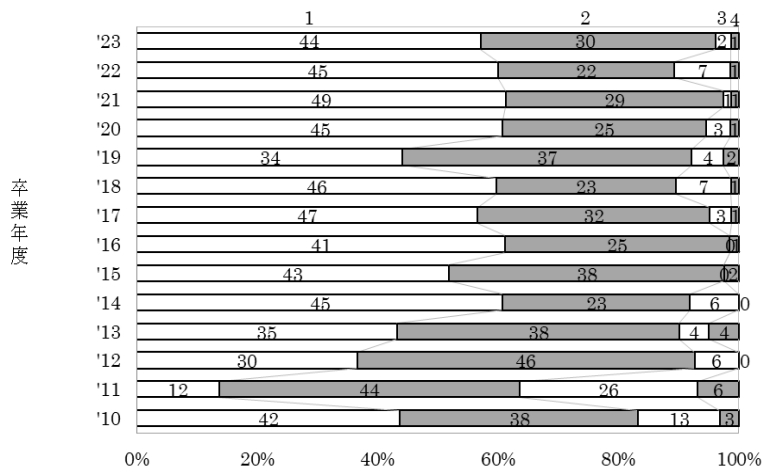
(F2) 自身の専攻の評価項目に関して次の4段階で回答して下さい.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である

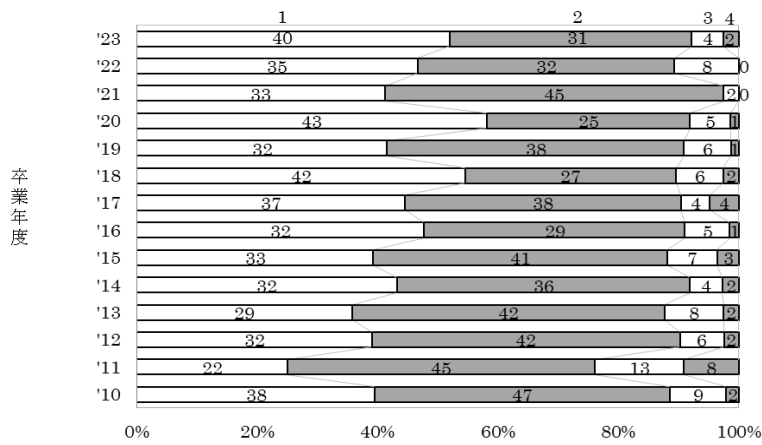
a. 授業科目の開設状況 :



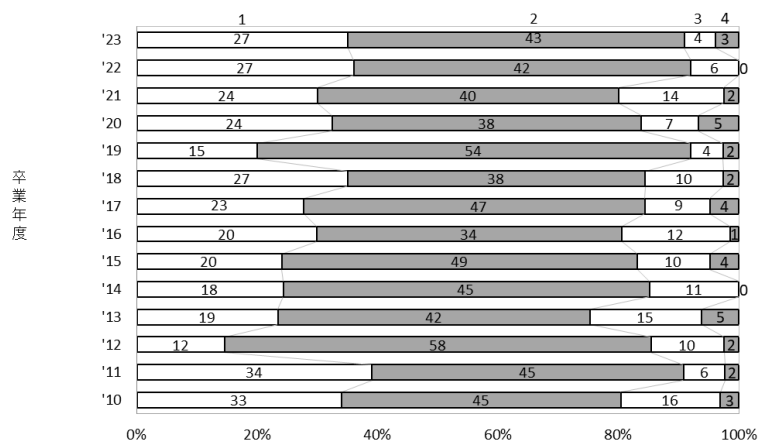
b. 修論等の指導 :



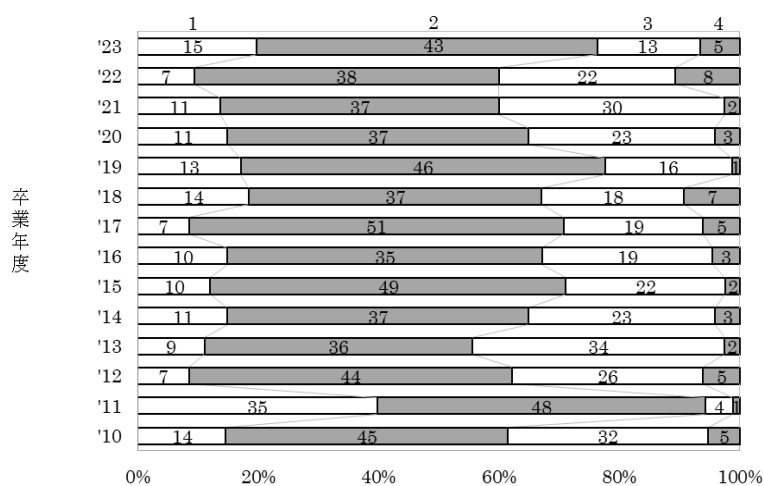
c. 研究室等での人間関係 :



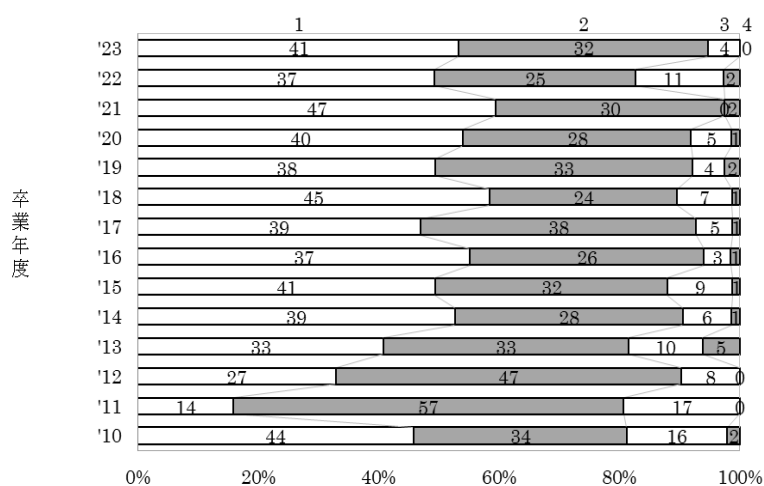
d. 施設や図書等の勉学環境 :



e:国際交流



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



例年、国際交流を除けば、「大いに満足」と「満足」を合わせて80-90%を占めており、満足度が全般的に高い結果を示している。さらに満足度を上げるよう、組織として国際交流への取り組みが必要である。